学校保健

No.169

(財)日本学校保健会

○第37回全国大会
開催の基本的考え方……2
○全国大会の原点を顧みて…3
○養教研修会の成果と今後…4
○保健主事に期待する……5

会報をよくするため、読者のご意見を求めています。お葉書をお寄せください。

学校保健に対する教職員の意識

文部省体育局学校保健課 課長　込山　進

学校保健の成果の一つである健康優良学校や良い歯の学校表彰に応募した学校の報告書にふれ審査委員の先生方の話を聞いているうちに、どのようにして保健活動が活発に行われ成果を挙げるようになったのか、それが一朝一夕に出来ることではないことだけに非常に興味を抱いていた。さらに日本一や優秀校になった学校の推進役を勤めた先生方の回想録を読んで、いずれもすぐれた奮闘記だと感心させられる。

活動のきっかけは、必ずしも優良校をめざすものばかりではなく、様々である。子供の健康を願って、いくつかの障害を乗り越えて一歩々々進めていく活動が、全教職員の態勢を固め、そして児童生徒の実践につながり、さらに家庭、地域の協力の輪に広がり、一体となって推進して行くパターンは大同小異はあっても共通していた。体の健康が心の健康へさらに学力の向上に発展して行く話には感動さえ覚えた。

優良校をめざさなくても、教職員の高い意識にさゝえられ着実な活動を続けている多数の学校で、今後、ますますすぐれた成果の花が開くことを期待している。

全日本よい歯の学校表彰校数一覧

昭和35年	第1回	小学校	186校
昭和36年	第2回	小学校	454校
昭和37年	第3回	小学校	651校
		中学校	176校
昭和38年	第4回	小学校	813校
		中学校	189校
昭和39年	第5回	小学校	982校
		中学校	259校
昭和40年	第6回	小学校	1,310校
		中学校	386校
昭和41年	第7回	小学校	1,721校
		中学校	486校
昭和42年	第8回	小学校	1,990校
		中学校	597校
昭和43年	第9回	小学校	2,222校
		中学校	666校
昭和44年	第10回	小学校	2,312校
		中学校	,747校
昭和45年	第11回	小学校	2,452校
		中学校	,725校
昭和46年	第12回	小学校	3,215校
		中学校	1,095校
昭和47年	第13回	小学校	3,540校
		中学校	1,212校
昭和48年	第14回	小学校	3,839校
		中学校	1,335校
昭和49年	第15回	小学校	3,915校
		中学校	1,372校
昭和50年	第16回	小学校	4,468校
		中学校	1,528校
昭和51年	第17回	小学校	4,663校
		中学校	1,627校
昭和52年	第18回	小学校	3,723校
		中学校	1,174校
昭和53年	第19回	小学校	4,113校
		中学校	1,215校
昭和54年	第20回	小学校	4,367校
		中学校	1,345校
昭和55年	第21回	小学校	4,433校
		中学校	1,458校
昭和56年	第22回	小学校	5,091校
		中学校	1,690校
昭和57年	第23回	小学校	5,273校
		中学校	1,664校

＊「よい歯の学校表彰」休止中の昭和58～59年度のモデル校表彰は、58年＝59校、59年＝59校。

（7頁に続く）

第37回全国学校保健研究大会開催の基本的な考え方

日本学校保健会副会長
大阪府学校保健会会長　尾花　茂

全国学校保健研究大会は、本年で第37回目を迎えましたが、その間、関係各位のご努力により、毎年多大の成果を収め、我が国の学校保健と学校安全の充実発展に大きく寄与してきた。これまでの多くの先輩や関係各位のご尽力に対し、こころから敬意を表するものである。

さて、第37回全国学校保健研究大会は、大阪で開催することになったが、皆さんご承知のように、大阪では昭和58年から「大阪21世紀計画」を推進しており、毎年、21世紀に向けての各種のイベントを実施しているところである。

このようななかで、全国各地から6,000人をこえる学校保健関係者の参加を得て、全国大会を盛大に開催できることは、大阪府学校保健会にとっても誠に光栄なことである。

大阪府において第37回大会を開催することが決定してからは、実行委員会を設置し、早速準備に取りかかるとともに、大会開催の基本的な考え方について討議を重ね、真剣に検討してきた。

第37回全国学校保健研究大会の開催についての基本方針は次のように考えた。

1. 第37回大会の意義

現在当面する子供の健康課題及び将来にわたって検討し解決しなければならない子供の健康課題について、学校保健関係者全体でその解決の手だてを考える。

2. 大会日程の改善

子供の健康課題について解決する手だてを考える大会にしたい。そのために課題別研究協議会は従来の2倍の時間を設定して、十分に研究協議が行えるようにした。

3. 大会の標題

「21世紀を担う健康な子供の育成を目指して」―
――自ら健康で安全な生活を実践する子供―

今日、社会が複雑に変化するなかで、21世紀を担う子供たちが、健康・安全の保持増進を図るための知識を修得し、心身を鍛えるとともに、自ら健康で安全な生活を実践する能力や態度を培うことは、学校教育の重要な課題である。このような趣旨から主題を設定した。

4. 特別講演

特別講演は「現代人とこころの健康」と題して、名古屋大学医学部教授・附属病院長の笠原嘉氏におねがいした。

21世紀に向けての健康教育については、臨教審の第二次答申において、生命の尊厳、生きることの意義を基盤とし、単に生物学的、身体的観点からだけでなく、今後は、とくに心の健康を含め、長期化する人生の全生涯にわたり健康で充実した生活を送ることができるよう、心身の健康の増進とそれに関する教育を重視する必要があると提言されている。こころの健康問題については、今後も益々重要な課題となってくると考えられる。

5. 13課題についての研究協議

課題別研究協議会の課題設定にあたっては、当面する子供の健康課題、将来にわたって検討・解決すべき課題について、アンケート調査(120名)を実施し、その結果を基に検討を行った。さらに全国的な視野をも包含し、日本学校保健会のセンター的事業の内容も考慮した。

また、教育活動に関する課題については発達段階も考えて校種別にするなど、十分に検討を行って、13の研究課題を設定した。

特に、第10課題「性の指導の進め方」第13課題「子供の遊びの変化と健康問題」については、本大会で初めてとり上げた研究課題であり、関係者の注目を集めている。

以上、第37回全国学校保健研究大会の開催にあたっての基本的な考え方について述べてきたが、本大会においては、特別講演の笠原嘉先生をはじめ、各課題別研究協議会の講師ならびに助言者には、その道のエキスパートの先生方をお願いしているので内容の充実した、すばらしい成果が上げられるものと期待しているところである。

学校保健研究大会の原点を顧みて

日本学校保健会 常務理事　下田　巧

I 過去に感謝

昭和26年10月、福岡市九州大学医学部中央講堂において、第1回全国学校保健大会が開催されたのであるが、これは前年名古屋において第4回全国学校衛生会において決められた結果のことである。

従って、第1回から第4回（昭和22年～25年）までは、学校衛生大会と称し、昭和26年から保健大会と称して、かつ、第1回とつけたことの意義は大きい。

そのことについて大会副準備委員長の円城寺宗徳氏（福岡県保健会長・九大教授）は、「新しい立場に基づく学校保健推進のために、その名称も学校保健大会と改め、今回を第1回とすることとした。」と述べている。

文部省からは、昭和24年11月「中等学校保健計画実施要領」、昭和26年2月「小学校保健計画」が発表されており、この「学校衛生」から「学校保健」へということは、新しい教育時代に対するイメージチェンジという意味合いで大きいものがあった。

当日の時間配当を見ると、式典、全体会に3時間レクリエーション30分、特別講演に1時間、研究発表5時間、職域別協議会2時間、全体協議会1時間を2日間に配分されている。この要領は第10回頃まで続いている。

昭和30年頃まで、本大会における協議会の果たした役割は大きく、協議会後の陳情内容は、国の施策遂行に大きな影響を与えた。そのことは、昭和29年学校給食法、同30年学校給食会法、昭和33年学校保健法、昭和32年公立学校の学校医、学校歯科医及び学校薬剤師の公務災害補償に関する法律、昭和34年には、日本学校安全会法が制定される等々、学校保健に関する諸法規が整備されて行った。従って、学校保健大会に参加する人たちは、誰もが大きな期待を持っていた。大いに感謝すべき大会であった。

児童生徒の疾病異常、生活環境の改善と併せ、諸制度の整備充実は、従来の学校保健大会が年を経過するにつれて変化してきた。

途中、研究課題を強化し、学校保健研究大会と改称し、協議時間を縮少する等改善を重ねて今日に至っている。

開催地では多額の費用と労力を費していることに対する見返りも漸次減少し、マンネリ化しつつあるのではなかろうか。

II 反省と改善への勇気を

各都道府県の学校保健の施設設備、児童生徒の疾病異常、生活環境或いは養護教諭の配置等に関しての格差は地域の特性はあっても大きな格差のなくなった事、現在法規による実施状況に大差のないことから保健大会への期待、参加者の聞きたい、学びたい意欲はかなり変ってきているように思われる。

班別研究会においても、すでに県単位、地区単位で討議されており、かつ全国的討議にそれほど新しさを感じなくなっているように思われる。

協議会は法的整備に貢献し、かつ、施策について意見を述べてきたが、その他の機会（主管課長会、日本学校保健会理事会、各種別校長会等）があって全国的事情を行政に反映する機会がある。そのため、協議会の決議と重複することが多い。

従来のままでは、活気、熱意が減少するとすれば協議会の存在は無用になるという意見もあるが、ここで私は新しい器に、新しい料理を盛ることこそ今後の学校保健研究大会ではなかろうかと思っている。

その意味で原点を顧みるには、遠城寺先生のことばにもあるように「学校保健関係者が渾然一体となって、学校保健振興の世論を調達すること、学校保健学会的色彩をもった研究発表並びに特別講演に重点をおくこと」としたという原点を顧みることであろう。

その中で、学会的研究はすでに学校保健学会が相当の成果をあげており、特別講演は別として、関係者が渾然一体となっての研究とは何かを求める大会こそいまなお未解決と言えるであろう。

地域・学校一体の学校保健、医療、教師、家庭、児童生徒の健康教育等々新しい課題が山積され、しかも、それらは一朝一夕の問題ではなく、永続すべきものでなかろうか。学校保健関係者の一層のご努力を期待する。

養護教諭研修会の成果と今後の課題

文部省学校保健課専門員　出井美智子

近年、保健室には単なる身体的症状だけでなく、いろいろな訴えを持ってくる児童生徒が増えてきたといわれています。たとえば頭痛や腹痛を訴えて来室した者でも、よく話を聴くと友だちや親、教師との人間関係がうまくいかないとか、進学、就職などいろいろな不安や悩みが原因となっていることがわかることが多いそうです。このように保健室には体の傷だけでなく心の傷を癒すためにもくるようです。

また、一方では生活や食事が不規則なために体の不調を訴えてくる児童生徒もふえているようです。

これらの児童生徒に対し、単にその症状に対する処置だけでは根本的な解決にはつながらないのです。一人ひとりの子供の抱えている問題を察知し、その問題を解決するにはどうすればよいかを考えて実行できる力量が必要になってきます。

学校で管理指導される疾病についてみても過去において大きい問題であったトラコーマ、結核、寄生虫などから、むし歯、低視力、心疾患、腎疾患、肝炎などと範囲が広くなってきております。

このようなことから、児童生徒の健康の保持増進に携わっている養護教諭の資質向上を図るために、文部省が日本学校保健会に委託して、昭和55年度から全国を6地区にわけ「養護教諭実技講習会」を実施してきました。

この講習会の期間は6日間で全国6地区の委託県の学校保健会、教育委員会が実施に当っています。内容は講習会の名が示すように実技を中心としています。2～3日の講習会は県や市でも実施され講義が主になっておりますので、聞くだけでなく6日間じっくりと自分でやって、保健管理や保健指導に必要な事がらを身につけていただくという趣旨なのです。

昭和55年から今年で13年経て、全国37,000人の養護教諭の1割強が、この実技講習会を受講したことになっています。「救急処置にしても、保健指導の資料作りにしても、自分なりにやってきたが、この講習会で理論に裏づけされた適切な方法を知り、それを自分自身でしてみることができ自信がついた。学校へ帰ってから子供たちのためによりよい保健指導・管理ができると思う」という多くの受講生の感想があります。

今年度で殆んどの地区で委託県が一巡し、ある地区では二巡目へ入ったところもあります。今後の課題として、対象者が教職経験5～10年となっていますが、母親として子育ての一番忙がしい時期であって、6日間家を留守にすることが困難であるという実態があり、対象年令はもっとフレキシブルにしたらどうかという声があります。

内容については、保健室には健康診断をはじめ多くの情報が集まり、養護教諭はその処理に多くの時間とエネルギーを費しています。最近、学校にもパソコンを使うところが増えてきました。そこで、保健室の情報をパソコンを使って保健管理や保健指導に役立つように処理し、空いた時間を直接児童生徒に接するようにできれば望ましいことといえましょう。一昨年あたりから実技講習会にもパソコンを使って情報処理の実習をする県が出てきました。今年近畿ブロックでは商業高校を借り、実習生に一台ずつパソコンをわり当て、生徒の応援まで受け自分で機械を操作したところ、とても好評だったそうです。今後、実技講習会の内容としてぜひ取り入れていただきたいと思っています。

昭和60年度から始ったヘルスカウンセリング講習会は、先に述べたように保健室に心の問題を持った児童生徒が増えたことから、それらの児童生徒に適切に対処できるようにという趣旨で、今年度からはこれを拡大し、6日間の日程で全国3ヶ所で実施されています。「カウンセリングマインドを持って生徒に接しよう」という言葉が養護教諭だけでなく一般の教諭にもいわれており、特に養護教諭にだけ必要とされる資質ではありません。この講習会では保健室にくる児童生徒ばかりでなく対人関係において相手の感情の動き、行動の意味などをよく感じ取ることができる「気づき」を高める実習を重視しています。

保健主事に期待する

日本学校保健会 常務理事　江口篤寿

はじめに

教育基本法第1条に、教育の目的は「心身ともに健康な国民を育成する」と記されている。このことからもわかるように、児童生徒等の健康の保持増進を図ることを、生涯にわたって健康生活を送ることができるような知識や態度・習慣を習得させる。つまり、学校保健は、学校におけるあらゆる教育活動の中で重要視されなければならない。

ところで、学校経営の責任者は校長である。

そこで、学校経営における学校保健の位置づけを決めることは、校長の役割である。そして、学校経営のいろいろな面、分野について、それぞれ校長を補佐する役職の1人としての保健主事がいる。その役目は『校長の監督を受け、学校における保健に関する事項の管理に当る』ことが学校教育法施行規則に示されている。このように、学校経営における学校保健の位置づけに関する校長の決断への保健主事の補佐責任は非常に大きいとおもわれる。

第30回全国学校保健主事研修会に参加して

本年8月18，19日、滋賀県大津市で開催された第30回全国学校保健主事研修会に参加の機会を与えられ、シンポジウム、研究発表、研究協議等を通して保健主事の方々の日常活動における研究と実践の実状をうかがうことが出来、学校保健を最優先した学校経営の実現のため、縁の下の力持ちとして頑張っている保健主事の方々に強い感銘を受けた。

さて、この研修会におけるシンポジウムで、シンポジストの1人である福井農林高校養護教諭の南部敬子先生（全国養護教員会会長）の発言の中で、保健主事を5つのタイプに分類されていたが、これはよく実体を示しているとおもわれるので、ここに引用、紹介させていただく。

1　管理職型　（養護教諭を部下として命令する）
2　無関心型　（保健主事としての自覚なく、無責任である）
3　おまかせ型（養護教諭にたよりすぎている）
4　責任過剰型（人まかせ出来ず、立場をまちがえている）
5　模範型　（企画、調整に優れ常に保健主事の立場で考える）

研修会に参加し、研究発表、討議に参加するような方々は、上記の5分類の中の模範型と考えてよかろうが、全国の保健主事の中には、模範型以外の4つの型のいずれかに属するような方が存在することは否定出来ないであろう。

不祥事の話題はマスコミで喧伝されやすいが、すぐれた人材は知られていないことが多い。同様に、保健主事が話題に上るときも、前記の1乃至4のタイプの例はしばしば示されるが、タイプ5、つまり模範型の保健主事については、話題に上ることはあまり多くないようである。

しかし、実際には模範型の保健主事は決して少なくない筈である。もっと、模範型の保健主事が注目されるようになってほしいと考える次第である。

保健主事には企画運営能力が期待される

これまで、保健主事の役割は、学校における保健に関する『連絡調整』であるとの考え方が一般的であった。例えば、保健体育審議会の答申の中で『保健主事は、…学校保健計画の策定の中心となり…』という文章からもわかるように、保健に関する事項の企画こそ、保健主事の重要な役割と考えるべきであるとおもわれる。つまり、心身ともに健康な国民を育成することを目的として行われる教育活動の種種相の中で、保健に関する事項が中心におかれている。適切な企画を行うことが、保健主事に期待される役割である。調整は、企画と実施の両段階で重要なことで、保健主事の役割として重要なことはいうまでもない。

むすび

保健主事の存在意義の重要なことは、はじめに述べた通りである。この重要な役割遂行のためには、南部敬子先生の分類による模範型、すなわち、企画、調整に優れ、常に保健主事の立場で考える保健主事が期待される。

Q&A－学校保健活性化のための－

Q 毎年開催される全国学校保健研究大会と全国9ブロックの研究大会との関連性はどうなっているのでしょうか。

A……学校保健に関する検討委員会 委員 石井宗一

両者の関連性は深いが、制約はなく、それぞれ独自性があって特色のある企画運営がされています。

1．今年の第37回全国大会は、大阪で約6,000人の参加を得て開催されます。第1回は昭和26年10月、福岡県で行われましたが、大会の主題はなく、東京教育大石山脩平教授の「新教育における学校保健の重要性」について講演がありました。大会主題が設定されたのは、第11回青森大会が最初です。第16回の群馬大会（昭和41年）までは研究協議大会でしたが、第17回愛知大会から現在の全国学校保健研究大会になりました。全国大会とブロック大会の主題とは、必ずしも一致していません。全国大会の主題は、時代の要求に応え、学校保健の動向、保健教育、管理など保健活動の内容や方法を示しています。ブロック大会の主題は、全国大会の動向を察知しながら地域の独自性を考えて設定されています。したがって、全国大会の主題は、わが国学校保健の牽引力となって大きな役割を果しています。

2．本年度の全国学校保健研究大会を昨年度のブロック大会のテーマを掲げ、全国の動きを眺めてみましょう。

第37回 昭和62年度 全国学校保健研究大会…大阪

標　題　21世紀を担う健康な子供の育成を目ざして
－自ら、健康で安全な生活を実施する子供－

昭和61年度　ブロック大会の主題

(1) 生涯にわたって、健康で安全な生活を積極的に実践する児童生徒の育成……九　州
(2) 自ら育てるたくましい体と豊かな心……中　国
(3) 学校保健の当面する諸問題の研究協議……近　畿
(4) 健康に対する自己教育力……東　海
(5) 自らの健康づくりを実践する児童生徒の育成……北　陸
(6) 心豊かで、たくましい児童生徒の育成を目ざして……関東甲信越
(7) 自ら健康づくりにとり組む児童生徒の育成……東　北
(8) 北国の風土に根ざし、心身ともに健康で安全な生活を営み、自らきたえる子どもの育成を目ざして……北海道
(9) たくましい体とすこやかな心を持つ児童生徒の育成－大都市に生きる健康づくりのあり方を求めて……十一大都市

以上の通りです。全国大会の標題の趣旨が全国9ブロックの保健研究大会や協議会の地下水的な役割をもって、全国の学校保健を育てているのが理解できます。

全日本よい歯の学校表彰について

「全日本よい歯の学校表彰」の初めは、日本学校歯科医会の最も大きな事業である「むし歯半減運動」の中から生まれたものである。

第1次むし歯半減運動は、昭和30年11月に東京都で開催された「第19回全国学校歯科医大会」において、当時、児童生徒のう歯急増が問題になっているにもかかわらず、その90%が未処置のまま放置されていたので、適切な健康教育と健康管理により、う歯を一掃すべく、その第一段階として児童生徒の未処置う歯を半減せしめるよう、強力な運動を展開する旨の大会宣言がなされ、翌31年から「学童のむし歯半減運動」という呼称で5ヶ年計画で実施されるようになった。そして、この運動の趣旨の徹底、普及をはかるために、具体的なものとして、昭和35年から「全校児童の永久歯う歯の50%以上が処置を完了していること」を条件として「全日本よい歯の学校表彰」が始まった。

当初、対象は小学校だけであったが、昭和38年（第3回）から中学校も表彰することとなり、むし歯半減運動が、第2次、第3次となるにつれ、表彰基準を若干手直しつつ、第23回（昭和57年）まで続いたが、表彰校が極めて多くなり(6,937)、この表彰事業の所期の目的を達したと考えられることと、う歯半減運動の新たな方向転換が求められることとなり、昭和58年度からは休止となった。しかし、この休止期間中も新しい形態を模索しつつ「モデル校表彰」という形で表彰事業を継続し、昭和60年度からは、このモデル校表彰を基に「予防」を重視した新しい「よい歯の学校表彰」を再開した。この新しい表彰は、おおむね各県一校として、この中から最優秀校に文部大臣賞が贈られ、昭和60年度は一校であったが、昭和61年度からは、大規模、中規模、小規模の各一校ずつに贈られるようになった。（再開した表彰校の対象は小学校のみ）

昭和60年度　第24回　小学校 61校
★最優秀文部大臣賞
東京都世田谷区立桜小学校

昭和61年度　第25回　小学校 56校
★最優秀文部大臣賞
☆大規模校　福島県会津若松市立城西小学校
☆中規模校　愛知県知多市立旭南小学校
☆小規模校　青森県木造町立出来島小学校

昭和62年度　第26回　小学校 58校
★最優秀文部大臣賞
☆大規模校　横浜市立笠間小学校
☆中規模校　岡山県和気町立和気小学校
☆小規模校　奈良県山添村立北野小学校

（日本学校歯科医会 常務理事　石川 行男）

学校保健会だより

◈財団法人日本学校保健会60年史のご案内

かねてから本会60年史の編纂が続けられておりましたが、近く発刊のはこびとなりました。

ご協力いただいた各加盟団体、執筆者の方々に心から感謝申し上げますとともに、編纂にあたられました皆様のご苦労に対し、あらためて御礼申し上げます

次に内容の大要をご紹介いたします。

1. 概　況
   - 社会的・教育的背景
   - 帝国学校衛生会設立への動きと必要性
   - 帝国学校衛生会設立の経緯
2. 組織及び運営
   - 会則及びその変更
   - 役員の組織及び会議
3. 事業及び事業計画の概要
   - 事業及び事業計画の概要
   - 一般事業　・学校保健センター的事業
   - 事務所の現在地移転への経緯
4. 財　政
5. 関係団体の沿革
   - (財)日本学校歯科医会
   - 日本学校薬剤師会
   - 日本学校医会
6. 地方史及び関係団体略史
   - 各加盟学校保健会の推移と現況

などの予定となっていますが、この60年史は、本会の60年の歩みとともに、我が国学校保健の推移の紹介でもあります。

各学校保健会はいうまでもありませんが、学校保健について研究されている方々には、大いに参考になるものと考えます。

大体B5版230～240頁を予定していますが、発行日・定価等については後日お知らせします。

ぜひ各関係方面のご活用をお願いいたします。

（常務理事　下田　巧）

発行 (財)日本学校保健会 村頼敬郎 〒105 東京都港区虎ノ門2-3-3第8森ビル 電話(03)3785-0963 振替口座東京 [illegible]

育ちざかりのひと粒！

体力をつけ健康を保つ

カワイ肝油ドロップ

製造発売元 河合製薬株式会社 東京都中野区新井2－51－8

エームスは新しい眼で健康をみつめます

ames

どちらかひとつをお選びください。

エームスの尿潜血・蛋白質同時検査試験紙。

尿中潜血・蛋白質・pH同時検査用試験紙

キッドスティックス III

尿中潜血・蛋白質・ブドウ糖・pH同時検査用試験紙

ペマコンビスティックス III

マイルス・三共株式会社
東京都中央区銀座1丁目9番7号 〒104 ☎(03)567-5511

販売元：
三共株式会社
東京都中央区銀座2丁目7番12号 〒104 ☎(03)542-3511

■児童・生徒向けの手引書■

児童・生徒の健康づくりのポイント

——動脈硬化の予防はこどもから——

●内容

恐ろしい動脈硬化／こういう因子が動脈硬化をすすめます（肥満・高血圧・糖尿病・高脂血症）／食生活のみだれ（飽食・とりすぎと不足・欠食・偏食……）／上手に食べて健康に（おやつ・夜食……）／運動のすすめ／タバコの害・健康づくりのためのKYB運動

■頒価 50部以上より受付・60円（送料実費）

●申込先 (財)予防医学事業中央会☎03-268-1800
〒162 東京都新宿区市谷砂土原町1-2 保健会館内

持続性バツグン・管理は完璧!!

ネオクロール・ニュー・W

プール用殺菌・消毒剤（有効塩素90%以上）

特長
- 有効塩素は、塩素ガス100%に次いで90%以上です。
- 水質変化は規定量使用の場合ほとんどありません。
- 安全性が高く目を刺激しません。
- 殺菌・消毒効果は石炭酸の16.0倍です。
- 長期間保存しても品質低下はほとんどありません。

又、ネオクロールシリーズとして、殺菌剤（ネオクロールT－20.ニューS）塩素安定剤（A－30）PH調整剤（ペーハープラス）除藻剤（アクアクリーン）塩素自動供給機（ネオ・クロリネーター）

四国化成工業株式会社
東京支店：東京都中央区日本橋3-13-11 TEL03(281)4111
大阪支店：大阪市南区南船場4-2-4 TEL06(251)4111

“ふだんの予防で、元気な毎日”まず手洗い!!

殺菌 消毒用 **シャボネット石鹸液ユ・ム**

日本学校保健会推せん No.659

精製ヤシ油を原料にした殺菌、消毒用石鹸液で、手洗いのあといや～な臭いが残りませんので喜んでお使いいただけます。シャボネット容器に入れ、水で7～10倍にうすめてお使いください。

サラヤ株式会社 TEL(06)797-2525　東京サラヤ株式会社 TEL(03)458 1515

〈本会報は、拠出金と、本会への船舶振興会助成金により作成しました〉